

よこすか育成通信

題字：横須賀市長 吉田 雄人

横須賀市青少年育成推進員連絡協議会

ガンバッてます!! 非行防止キャンペーン

☆7月12日 横須賀中央駅周辺

常葉・不入斗・大津中学校区

梅雨の晴れ間、常葉・大津・不入斗中学校の生徒、学校関係者、推進員の総勢53名で、16時から横須賀中央駅前、チラシとティッシュを配りながら非行防止を呼びかけました。

前日の台風の影響もなく、Yデッキ周辺は中学生たちの元気な声が響き渡り、多くの方が足を止めてくださいました。

その中の40代男性は『インターネットや危険ドラッグなどのトラブルに子どもたちが巻き込まれる事を危惧している』と真剣な面持ちで語ってくださいました。また、若いサラリーマンの一人は、中学生たちを労いながら『このキャンペーンは非行防止の関心を高めるため必要です。どんどん行ってください』とエールを送ってくださいました。

私たちの活動が少しずつ地域の方々に浸透していると実感しました。(鈴木 啓子)

開催直前に雨模様となったため、雨を凌げる場所の確保に奔走したり、風船の配布を取り止めて膨らませた風船は汐入小に引き取ってもらったり、出入りするお客様の迷惑にならないようにチラシを配布したり、各々が状況を見て自ら動いたことで無事に終えることができました。(井上 浩文)



☆7月26日 追浜駅周辺

追浜・鷹取中学校区

夏休み中の土曜日夜刻、しかも猛暑の中、鷹取中学校と追浜・横浜創学館高校の生徒の皆さん、そして学校関係者、各学区青少年育成活動地域連絡会のメンバー、青少年育成推進員など総勢48名の参加で行われました。

『非行防止キャンペーンを行っています。ご協力お願いします』の



声かけとともに、キャンペーンの趣旨を伝えるティッシュやチラシを手渡しました。ウサギの着ぐるみの周りには子どもたちが大勢集まり、はじめはそっと触ってやがてハイタッチ。みんなニコニコ顔でした。街行く大人たちも笑顔で振り向いてくれました。若者たちも立ち止まってちょっとしたコミュニケーションの場に。

非行・被害防止の声かけをした若者たちの気持ちが、立ち去ってゆく若者たちにきっと伝わったことでしょう。さわやかな触れ合いの場でした。あっという間でしたが無事終わり、参加してくださった皆さん、お疲れ様でした。(石渡 謙司)



☆7月19日 汐入駅周辺

坂本中学校区

当初は汐入駅およびメルキュールホテル周辺を予定していましたが、雨模様のため急遽変更して、ショッパーズプラザ横須賀1Fのアトリウムで開催しました。

坂本中学校の生徒12名、近隣5校から校長他、地域連絡会メンバー、保護司、県および市からの参加もあり、雨天ながらも総勢46名での開催となりました。

生徒さんを中心にチラシ配布を行いました。最初は戸惑いながらも徐々に慣れてきて声も出せるようになり、用意したチラシは40分ほどで配布を終了しました。

ガンバってます!!

☆北久里浜桜まつり

大津中学校区

毎年秋に、講師を招いて中学生や地域の方にいろいろな体験をしていただく中学校主催の『ふれあい教室』という行事があります。

我々青少年育成推進員も講師として、チョコバナナ作りを指導しました。その教室に参加していた中学生の発表の場として、4月5～6日『北久里浜桜まつり』でチョコバナナの出店をしました。

お天気もよく、初めはゆっくり作っていましたが、だんだんと人出も多くなり行列もできてきて、中学生は早くできあがるよういろいろ工夫しながら、ひたすらチョコバナナを作り続けていました。

この経験を楽しかった思い出として、将来地域活動に積極的に参加してくれると嬉しいなと思います。(松元 陽子)



☆落書き消し隊

大楠中学校区

『この地区で育った君たちには実感が無いかもかもしれませんが、この大楠ほど地域の大人が学校に関わってくるところは他に無いと思います』



8月2日(土)朝9時、夏休み中の大楠中学校に集まった50名を越える生徒たちを前に伊藤校長があいさつしました。彼らは大楠中学校『落書き消し隊』です。その名の通り地域の落書きを消すために2011年に生徒会が中心になって結成されました。地域から目立った落書きが減ったせいもあり、今回の活動内容は学校周辺の美化(ゴミ拾い)でした。

地域れんらくかい

炎天下、彼らは周辺4コースに分かれ出発しました。PTA関係者や青少年育成活動地域連絡会のメンバーら30名以上の大人たちとともに学校周辺の国道、生活道路上のゴミを拾って歩きました。約1時間半後、彼らは満杯になった10袋以上のゴミ袋とともに学校に戻ってきました。(亀田 章)

☆長井民泊体験たび

長井中学校区

全国の修学旅行生を対象とした『体験たび』受入れは、地域を挙げての町おこし企画です。行政からの提案とはいえ、実際の労をとるのはやはり地域の皆さんです。連合町内会の意向で青少年育成推進員も事務局運営の一端を担っています。

5月21日に第一回目として、兵庫県神戸市立港島中学校3年生62名を20軒の一般家庭に受け入れました。生徒たちはそれぞれに長井の日常と船釣りを満喫しました。

現在『長井に泊りたい!』という全国からの要望は私たちが思うよりはるかに多く、地域としても戸惑いは大きいですが、長井のきめ細かいネットワークづくりが、特効薬としてその迷いを払拭してくれるでしょう。そしてその先に、最大の目標である“住みよい街、子育てしやすい街”づくりが見えてくると思います。(泉 忠良)



☆野比のホタルを見に行こう

野比中学校区

野比は三浦半島で自然生息のホタルの保護・観察をいち早く行ってきた地区です。その恵まれた環境を生かし、地域連絡会青少年推進部は6月14日ホタルの鑑賞会を開催しました。

6回目となる今回は小学生や保護者を中心に総勢185名が参加。湿った足場を気にしながら『あっ、光った!飛んでいる!』と歓声を上げていました。1時間ほどの観察を終え、帰りがけには『初めて見ました。きれいですね。また来年も参加します』との感想もいただきました。

いつまでもホタルを見ることができるといいですね。(浅葉 洋子)

☆会長のごあいさつ

連絡協議会会長 芦澤雄一



青少年育成推進員は任期2年で、今年の4月に任期替えとなり、活動を進めております。

主に市内の中学校区ごとに学校・PTA関係者、町内会、子ども会、民生・児童委員などの役員の皆さん

と青少年育成活動地域連絡会の中心的役割を担っています。

今や青少年が育っていく環境は格差と競争社会の中で、いじめ・虐待・不登校、またケータイ・ネット社会、薬物乱用など非常に厳しい条件に置かれております。

今年横須賀市は、人口動態調査で転出超過ワーストワンとなってしまいました。早急に若者や子育て層にやさしい街、そして選ばれる街、定住したい街づくりを目指して行政、企業、学校、家庭、地域が一体となって方向性を定め、各々の分野で対応を進めてゆく必要があります。

私たちは、次世代を担う青少年が健やかに育つため、また街づくりのよきパートナーとして支え合えるために、微力ながら地域からの支援と見守りを続けます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

☆新任のごあいさつ

広報研究部会長 里見 規矩夫

今期部会長を務めることになりました。よろしくお願いいたします。

昭和50年に児童ミニバスケットの指導を始めてから、約40年間子どもたちの育成に携わってきました。

青少年育成推進員も今期で通算10年になります。

引退を考えていた矢先に、前任者から後任にとの話があり、やむを得ず引き受けることとなりました。

あまり気負うことなく任務遂行していければと思っています。この任期2年間で終了すると後期高齢者の仲間入りです。最後の奉公のつもりでがんばりますので、皆様のご支援ご協力をお願いします。



☆青少年の健全育成を進める県民大会

7月12日 海老名市文化会館

青少年の健全育成を地域で担うために、家庭、学校、地域などの関係者の連携・協力・

信頼関係を深め、豊かなコミュニティづくりを考える場であるこの大会が、県内72の青少年育成団体の皆さんの参加で今年も開催されました。

高校生による創作和太鼓のすばらしい演奏で始まり、主催者あいさつの後、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

～心の居場所の大切さ～をテーマにしたパネルディスカッションでは、高校生2名と大人2名のパネリストの間で活発な意見が交わされました。

コーディネーターのまとめとして、

- ①無縁社会・・・居場所のないのは子どもではなく、むしろ親である。近隣の交流が希薄なので、問題が起こるまで気がつかない。
- ②人は居場所を作る・・・自分の居場所を求める。緊急避難として、引きこもりや、非人間的な居場所を求めてしまうこともある。
- ③周囲との人間関係を排除・・・ネット依存。現実社会には依存できない。何をするか自ら立ち上がることができない。
- ④居場所というのは具体的・物理的な場所ではなく『心の居場所』は、考え方や気持の持ちようが大事である。

という発表がされました。

『居場所を与えられるのではなく自らの手で作り出したい』厳しい現実ではありますが、この高校生の前向きな意見を耳にして明るい気持ちで会場を後にしました。(小川 輝夫)



☆青少年の非行・被害防止啓発パネル展示

7月7日～11日 市役所本館北口

内閣府が7月に実施している『青少年の非行・被害防止全国強調月間』に合わせて、毎年市役所にパネル展示をしています。

今年は、スマートフォンやインターネットに関するものを題材として、標語・ポスター・四コマ漫画などを展示し『有害サイトやネット詐欺などから青少年を守りたい!』という思いを伝えました。

今回のパネルは『独立行政法人 情報処理推進機構』の協力を得て作成しました。

各地域での行事などにも使っていただければと思います。

(環境研究部会長 佐々木教之)



☆青少年育成推進員新任研修会

5月17・18日 青少年会館

冒頭に会長から、今期の青少年育成推進員定数160名のうち新任者は51名と説明がありました。青少年育成の大切さを感じる継続者が100名を超え、今期の活動も順調に進むと感じました。

次に、横須賀市から地域の子育て支援の整備を目的に、こども育成総務課を新設し、(仮称)よこすか子ども・子育て支援事業計画を27年度に立ち上げる報告がありました。この報告から、行政からの青少年のサポートがより充実することが期待できました。

推進員に関する説明をまとめると、地域や学校と連携して青少年の健全育成を推進すること、具体的な活動は下記に示す4つの研究部会と各中学校区での活動です。



- ・ 広報研究会
 広報誌「よこすか育成通信」と各中学校区の活動報告書の作成
- ・ 研修研究会
 研修会の企画・運営と各中学校区の活動体験発表会を実施
- ・ 環境研究部会
 非行防止キャンペーンと啓発パネル掲示
- ・ 育成研究部会
 ウォークラリーとわんぱくフェスティバルの企画・運営
- ・ 各中学校区
 ミニ集会、地域パトロール、地域・学校行事への参加など

説明して下さった推進員のアドバイス「自分が楽しむことが大事」がとても印象的で、今後の活動を子どもたちと一緒に楽しみたいと共感しました。(中園 晃充)

☆横須賀三浦地域青少年指導員活動研究会

6月8日 県横須賀合同庁舎

県主催のこの研究会は、青少年育成に携わる指導者の意識・技術向上を目的に、毎回外部講師をお招きして開催されています。今回のプログラムは「インプロ(即興劇)」を用いてコミュニケーション能力の向上を図る「インプロ・シンキング・ワークショップ」(www.improjapan.co.jp)でした。

このプログラムの特徴は、日々の生活や仕事、台本や打ち合わせ無しで創られる「インプロ」そのものであるという発想から、即応(常に集中し、全体を理解し、瞬時に最善の行動をとる)力を養う、ゲーム感覚のトレーニング法を開発していることにあります。

今回体験した中で特に印象的だったのは、主人公とその境遇・結末を設定し、短文や文節を20人程度で順に語りつなぎ、一つの物語を創り上げるゲームでした。

個々の発する言葉の意図を汲み取り(常に集中し)、物語全体の流れを意識しつつ(全体を理解し)、調和させあるいは別の展開に導く(瞬時に最善の行動をとる)。このゲームを通して、これら即応力に欠かせない要素のトレーニングを、楽しみながら行えると思いました。

とは言えこのゲームは、我々(発想貧困、自己中、...)にはハードルが高いことも事実で、きっと子どもたちの方が、意外な展開に満ちつつ調和のとれた、柔軟で楽しい物語を紡いでくれるのではないかと思います。

(小林 正和)

♪ ゆうやけこやけ ♪

夏休み前に、町内の役員からこんな相談を受けました。夏休みの間に自治会館を子どもたちに開放できないかと。民生・児童委員と福祉推進員の発案で、若いお母さんの手助けをしたいというものでした。早速、子ども会に協力をお願いして、アンケートを行い、多くの要望を確認しました。ここからの行動が早く、回覧板用の案内が作成され、20名以上のボランティアが集まり、夏休みに入るとすぐに『子どもたちの居場所』を始めました。大人の目の届くところで、友達と宿題に取り組む場所として、親以外の大人の人に叱られたり、昔の遊びを教してもらったりと、子どももボランティアも楽しく過ごしています。この取組に関わって、町内の方のあたたかさやエネルギーを感じて、とても幸せな気持ちになりました。(Y.O.)

編集後記：

「まだ辞めたくないのに・・・」、「無理矢理押し付けられた・・・」、「辞めたくてもやめられない・・・」などなど、任期2年の育成推進員の選任に当たって、悲喜こもごもの交代劇があったようです。広報研究部会でも3分の1以上が新任者です。新たな考え方を取り込んで「よこすか育成通信」を発行していきたいと思えます。

(編集担当 里見 規矩夫)

「よこすか育成通信」第17号
発行/横須賀市青少年育成推進員連絡協議会
会長 芦澤 雄一
〒238-0016 横須賀市深田台37番地
横須賀市役所こども育成部
こども育成総務課(青少年会館)
TEL 046-824-5377
http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp
/3405/g_info/1100050659.html